

新川会通信

第33号

# すまいる

発行  
社会福祉法人新川会

〒930-0362  
上市町稗田字七郎谷 1-32  
Tel (076) 472-1118  
Fax (076) 472-5391  
E-mail yotsubaen@nikawakai.jp  
HP http://www.nikawakai.jp/

発行責任者 牧野 武



## 四ツ葉園の増床から十年を顧みて

四ツ葉園保護者会 会長 土肥 峯 雄

寄稿の依頼を受け、題目を聞いてビックリポンでした。早十年もたったのかと。十年前にタイムスリップしてみますと、増築工事の進み具合を横目にし、我が子は新館に入れるのかなあ、利用者さんは持論保護者の皆さんも楽しみにしておられました。

平成十七年三月にようやく本丸が完成し四月から使用開始。その時の感想は、一、玄関が広くなり車椅子の出入りが楽になったこと。二、浴室も明るく、広いので安心して入れる。いい湯だなと声が出そう。三、中庭などゆったり空間が有り、利用者さんもリラックスして休息できる。天気のいい日は最高でしょう。四、園全体が広がったので、園祭などの大勢の人が来られても、以前の狭苦しい思いをせずに、ゆったりと行動ができること。

鈍の私は、四ツ葉園を中核としたネットワークづくりの基本ベースが確実に進歩したと感じたのは、一年位たつてからでした。当時の新川会理事長故・高木久之様を始め関係者各位の皆様にご感謝申し上げます。

五十名体制から八十名体制へ、一つつみたにの家一等八十二名の移動。その後の補充による新利用者さんとの出会い。十年の重みと言いますが、今は利用者さんも保護者さんも高齢化が進んだことが一番心配なことです。

小ホールは今でもくつろぎの場。来園日の翌日我が息子を登園させると、「コーヒータイムの利用者さんが「土肥君おかえり。やっちゃん来たかか。」と笑顔で声をかけて頂き、嬉しく思っております。それに対して息子は「おん。」と一言。体調が悪いと下を向いています。

今後も健康を保ち、楽しい日々をすごしてくれらることを願っています。笑顔・幸せ・笑顔。ありがとございませう。

四ツ葉園がさらに発展することを願っています。



# 工房よつば

平成二十四年度に十名の利用者でスタートした工房よつばも三年が経過しました。十一月からは新しい仲間も加わりになぎやかにになりました。現在の活動の様子を紹介します。

主な仕事内容は、委託作業のバリ取りです。製品には大きさや重さ、形が異なる多くの種類があります。製品によっては1cmほどの小さなものや固いもの、複数にわかるものがあり、日々、異なるため、説明と確認を確実に言い間違いがないよう心がけています。

他にも、旅館やホテルのタオルたたみや入浴セット、シール貼りや吸水紙入れ、よもぎ新芽採集、高速道路サービスエリアの花植え等を行っています。

また、今年の夏からは富山型ダイサービスで、茶碗拭きや軽作業のお手伝いを行う体験実習を開始し、活躍の場を広げていきます。

自主製品では「よもぎ風呂」やアクリルタワシを製作しています。よもぎの葉を一枚ずつちぎる丁寧さを徹底した「よもぎ風呂」や、洗剤がなくても汚れを落とすアクリルタワシの人気は健在です。



生活場面では食事準備や清掃の役割分担も定着しており、毎日の当番も協力し合っています。お互いに声をかけ、励ましながらでできること増やしています。

季節行事は自治会が主体となり内容を話し合います。企画を盛り上げるために、グループホームの世話人さんや職員からの情報を集め、話を進めるようになってきました。今後の行事に期待ができます！

作業の種類が徐々に増え、それぞれの仕事を繰り返し行うことで作業工程を覚えてきました。「仕事」として取り組む緊張感や納期にあわせて作業を行う責任や達成感などたくさんのおこしを学べる場所となっています。

毎日を大切に、一人ひとりが自信をもって力を発揮できる工房よつばにしたいと思っています。



# 四ツ葉園だより

## 四ツ葉園祭 (十月十八日)

「ドン!」「ド  
ン!」「ドーン!」  
今年、四ツ葉園に  
大きな太鼓の音色が  
響き渡り、会場から  
は大きな拍手が沸き起  
こりました。演奏した  
利用者の皆さんはもちろ  
んですが、当日までに練り返  
し練習の成果が発揮されたよ  
うに感じました。

四ツ葉園での和太鼓演奏は初  
めての取り組みで、最初は職員  
も太鼓の基本すら分からず教え  
る立場としては不安でしたが、  
町内の弓庄太鼓様、舟橋さんど  
り太鼓の吉川様はじめ、たくさ  
んの支援やご指導がありました。  
最初はリズムを合わせるどころ  
か上手く叩けないこともありま  
したが、苦労しながらも楽しく  
太鼓を叩く姿を見て「できるは  
ずだ」と感じました。もちろん  
壇上に加って演奏した利用者  
の方々だけではなく、全員の利  
用者の方が一緒に大きい声を出  
して盛り上げ、四ツ葉園が一体



となったと思います。  
今年は大変天候にも恵まれ、  
会食では「てんぷらうどん」や「熊  
鍋」といった少し嗜好を変えた  
メニューも用意され来場された  
皆さんも大変楽しむ姿が見られ  
ました。

来年も皆さんの笑顔と活気が  
溢れる四ツ葉園祭が開催できれ  
ばと思っております。

## あすなる班のお引越し



あすなる班は行動障害を持つ利  
用者さんが毎日、規則正しい生活  
を送り、かつ活動を通して心身の  
安定を図ることを目的として取り  
組んでいます。

あすなる班は以前まで、新館に  
ある行動改善室で活動をしていた  
のですが、六名の利用者さんが活  
動するには狭い空間であること  
で、いくつかの問題を抱えていま  
した。その一つに、個々の活動ス  
ペースが不十分で、スペースを間  
仕切ることができない状況があり  
ました。そのことにより、隣の方  
の声や音が近く、落ち着いて活動

をすることが  
難しい状況で  
した。そこで、  
体育館横にあ  
る生活訓練棟  
へ移り、抱え  
ている問題を  
解消できるよ  
う計画を立て  
実行することに  
しました。

しかし、環境への変化に対応す  
ることが苦手な方々が二年間活動  
していた場所をうつることは、不  
安や混乱を抱かせることになりか  
ねません。そのため、一日でも早  
く新しい環境に馴染めるよう一人  
ひとりの活動メニューと、班に入  
る職員の動きを作成し、それらの  
統一を図りました。

十月二十二日の移動初日は、新  
しい空間に戸惑う様子もありまし  
たが、席に座ると淡々と作業にと  
りかかり、一日目から全員計画し  
ていた活動を取り組むことができ  
ました。そして、現在も改善室よ  
り広々とした生活訓練等の作業ス  
ペースで、落ち着いて活動をする  
ことができています。

今後も利用者さんがより良い生  
活を送られるよう、目の前にある  
課題や問題に挑戦していく姿勢を  
持ち続けていきたいと思っております。



# 雷鳥苑だより

## 雷鳥苑祭



今年のカボチャの重さ当てクイズなど「参加型」にすることで、保護者の方や地域の方にも楽しんでいただけたのではないかと思います。



れ、本番の強さに驚きました。また午後からは、はとぼっば劇団さんの劇にも参加させていただきました、たくさんの方が起きていました。模擬店では雷鳥苑の畑で採れたネギや芸芸班で制作した手芸品などを販売し、たくさんのお客さんに購入していただきました。また、班ごとの作業内容をボードにまとめ展示することで多くの方が足を止めておられ、作業内容を知ってもらえることを嬉しく思いました。

利用者の皆さんは出し物の事で緊張した面持ちでしたが、いざ始まると緊張が嘘のように消え、元気のよさと笑顔が見られ、本番の強さに驚きました。

十月二十四日(土)第十回雷鳥苑祭が行われました。今年話題になった北陸新幹線にちなんで、車掌に扮した司会者が各グループの発表内容を説明し、グループごとに練習した歌やダンスを発表しました。苑祭当日、



# 工房よつばだより

## 社会生活体験



見学を終え、「まじめに作業をしていた。」「ていねいで静かにしていた。」等の感想がありました。がんばっている人たちを見て、いろいろなことを学んだ社会見学になりました。

外にでる畑作業、冷たい水を使用している作業風景を見て、仕事への姿勢や厳しさを学べたように思います。また、清潔な環境は、人も仕事も気持ちよく取り組めるように感じました。

十一月十八日(水) 社会生活体験で外出しました。雨や雪でも天候に関係なく

り箸入れの様子を見学しました。学。ダンボールの組み立てや、ねぎやいちごの生産、割

「わくわくファームきらり」と「JOBにながわ」を見学。ダンボールの組み立てや、ねぎやいちごの生産、割り箸入れの様子を見学しました。

た。十一月十八日(水) 社会生活体験で外出しました。雨や雪でも天候に関係なく



おいしいね!



JOBにながわ



わくわくファームきらり

# さつき苑だより

## さつき苑祭

平成二十七年  
十月十日(土)  
第七回さつき苑祭  
が開催されました。

開会式では、利用者  
の皆さんが今年ト  
ンチャイムに挑戦し「星  
にねがいを」演奏しまし  
ました。また、全員で、「世界  
にひとつだけの花」を合唱し  
ました。

アトラクションでは、演歌歌手  
の金村ひろしさんに熱唱してい  
ただき、きれいな歌声が会場を包  
み、みなさん手拍子で会場を盛  
り上げました。



また、日中活動で製作した作  
品や絵画教室で描いた作品、療  
育班が、牛乳パックを再生した和

紙を使用した製作した「北陸新幹  
線と立山連峰」の貼り絵を展示  
しました。

天候にも恵まれてたくさんの方  
に参加していただき楽しい時間を  
過ごすことができました。ご協力  
していただいた保護者、ボランティア  
の皆様ありがとうございます。



## 新商品紹介

さつき苑では、木工製品の製  
作を行っています。今年はい  
新たに、富山  
県の市町村を  
ピースにした  
パズルや十二  
支、動物をモ  
チーフにした  
パズルを製作  
しました。



# つつじ苑だより

## パソコンは楽し!

現代は、一人  
一台のパソコン  
の時代、苑では、  
春先に利用者の皆  
さんにパソコンに  
慣れ親しんでもら  
うためにパソコンを  
一台用意しました。  
希望者を募ったとこ  
ろ何人かの人が手を挙  
げてくれました。  
自分たちで使う時間や  
ルールを話し合っ  
て決め、職員は操  
作の方法を質問さ  
れた

## 第七回つつじ苑祭

十一月三日(火)、第七回つ  
つじ苑祭が行われました。  
今年のアトラクションは、利  
用者の皆さんが造形活動で作  
ったペープサートや手作りのマ  
カス、ポンポンを使い全員で  
「手のひらを太陽に」と「風  
になりたい」を歌いました。そ  
の後、以心伝心&岩ちゃんぐさ  
んによる懐かしい歌の演奏が  
ありました。

模擬店では、喫茶コーナー  
で、苑で植え育てたサツマイモ  
を使って利用者・職員が作った

外は口出ししていません。

AKB48のメンバーのリス  
トを作成している人、自己紹介  
文を考えている人、ゲームをし  
ている人、様々ですが、近い将  
来このメン  
バーが中心  
になって自  
分たちの思  
いを綴って  
文集を出せ  
ればいい  
なあと思っ  
ています。



パソコンは楽しいなあ...

お菓子を皆さんに食べてもら  
いました。各模擬店でお腹がい  
っぱいになった後は、皆さんお  
待ちかねのビンゴ大会を行い大  
盛り上がりでした。  
協力して下さったボランティア  
の方、保護者の皆さん本当に  
ありがとうございました。



# 地域生活相談室

## 慰安旅行で 東京に行きました

グループホーム「かわはらだの家」に住んでおられる尾塩裕さんが永年勤めていた会社を十二月で定年退職されることから、十一月に一泊二日の慰安旅行で東京に行きました。

尾塩さんは、若いときに東京で働いておられ、以前から久しぶりに東京へ行きたいと言っておられましたので、今回の慰安旅行をとっても楽しみにしておられました。

楽しみといえばもう一つ、北陸新幹線に乗りました。三連休の最終日に出発したことで、車内は北陸のお土産を持った観光客で大変混雑していましたが、心優しい青年が尾塩さんに席を譲ってくれたことがあり、心が温かくなりました。

東京に着いてすぐに「スカイツリー」の見学に行きました。夜景を楽しむ予定でしたが、天気が悪く霧で何も見ることができませんでした。気を取り直して、もんじゃを食べに月島へ行きました。もん

じゃ通りを歩いていると目に飛び込んできた「おしお」ののれん。思わず本人と目が合って吸い込まれるように店内へ入りました。生ビールで乾杯をして、少し酔いが回った本人が「わしも尾塩やけど、あんたも尾塩け？」と店主に尋ねると「私も尾塩ですよ。出身は富山県ですか？」と驚きの一言。尾塩は全国的に珍しく、店主の祖父は尾塩さんと同郷の富山県の水橋出身で、二人はどうやら遠い親戚でした。偶

然の出会いにお互い興奮を隠しきれない様子でした。

二日目  
は、「築地」「柴

又」「巣鴨」「国会議事堂」と観光名所を巡りました。「築地」では新鮮な海鮮丼を味わい、タレントのテリー伊藤のお兄さんが経営している玉子焼き屋にも行きました。海外からの観光客が非常に多く、日本なのにとっても不思議な感じがありました。「柴又」では、「帝釈天」や「寅さん記念館」に行きました。憧れの「寅さん」と一緒に写真を撮



撮りとても満足そうでした。「巣鴨」では、「高岩寺」でお参りをしました。

「国会議事堂」では、日本の政治の中心を外から見学しました。前日に「靖国神社」で爆発事件があったことから警察官がとても多く、異様な雰囲気でした。

最後は「東京駅」でお土産や駅弁を選びました。この二日間、歩きに歩き回って、さぞかし疲れたのでしよう。帰りの新幹線では、すぐに寝てしまわれました。

尾塩裕さん、長い間お仕事お疲れ様でした。今後はグループホームでゆっくり過ごして、第二の人生を楽しんでください。



## 研修報告

富山県強度行動  
障害支援者養成研修  
(基礎研修)に参加して

中川 伸治

平成二十七年十二月七日〜八日

にかけて富山県総合福祉会館(サンシップとやま)において富山県強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)に参加してきました。

強度行動障害とは自分の体をたいたたり食べられないものを口に入れる、危険につながる飛び出しなど本人の健康を損ねる行動、他人を叩いたり物を壊す、大泣きが何時間も続くなど周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動が著しく高い頻度でおこるため、特別な支援が必要になってくる状態のことをいいます。また乳幼児期から強度行動障害の状態の人は誰もいません。周囲の支援体制やかかわり方といった「環境要因」が関係してきます。

日頃のご本人の障害特性やおもい等を理解し日頃の状況や様子も見ながら「基本的な支援の枠組み」にそって連携して継続して実直に支援していく必要があります。

ご本人たちが理解のできない状況や感覚的な苦痛の中にいるという状況を理解し安心してすごせる環境作りに努めていきたいと考えています。